

合併に伴う水道施設整備事業計画の概要

高松市の水道事業は、平成15年7月に国の認可を受け、平成29年度を目標年次とする「水道施設整備事業計画」を策定しました。この水道施設整備事業は、平成6年の異常渇水以降、給水量が伸び悩むなか、毎年のように起こる香川用水の取水制限に対応するため、栂川ダム建設促進等による自己処理水源の確保のための事業と、水道施設については老朽施設、老朽管の更新や耐震化等の事業を推進するものです。

このような中、平成18年1月10日の香川町、香南町、国分寺町、庵治町、牟礼町との合併に伴い1市5町の水道事業を統合し、新高松市水道事業として平成30年度を目標年次とした新たな水道施設整備事業計画を策定し、平成18年1月に国の認可を受けました。前回認可の事業に加え、合併町の水道施設の整備、新たな配水管網の整備を行い、引き続き、渇水に強い水道事業を目指します。

認可の主な内容は以下のとおりです。

区分	今回の認可	前回の認可
計画目標年度	平成30年度	平成29年度
計画給水区域面積	221.00km ²	138.90km ²
計画給水人口	417,000人	333,200人
計画1日最大給水量	185,100m ³ /日	154,100m ³ /日
総事業費	約285億円	約210億円

事業計画の財源は、お客さまからの水道料金や国からの借入金（企業債）等でまかなうことを前提として策定しています。今後、県営水道料金（香川用水を水源とする水道用水を受水する料金）の値上げ、金利等の動向によって変更する可能性もありますが、事業の平準化やコスト縮減、また一層の効率経営などで、料金への影響を最小限にするよう努めます。

また、平成9年度から実施している栂川ダム事業についても、合併により高松地区広域市町村圏振興事務組合から新高松市に引き継いだことから、事業の再評価を行いました。栂川ダムがある場合とない場合において、平成6年級の渇水が生じた場合の被害額を算出し、その差を被害軽減額としてダム建設のための高松市負担分の何倍に当たるかを費用対効果として算出しました。その結果、費用対効果は3.09となり事業の効果が認められることから、引き続き栂川ダム事業に取り組み安定水源の確保に努めます。

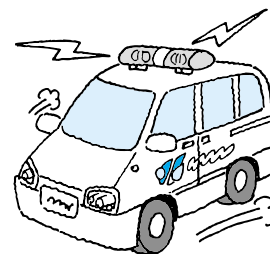
便益 (渇水被害軽減額)	費用 (建設費および維持管理費) (高松市負担分)	費用対効果 (便益/費用)
約550億円	約178億円	3.09

緊急車両を導入しました

水道局では9月末に緊急車両を購入しました。

緊急車両とは、道路上漏水の際、消防車やパトカーと同様に赤色灯を作動しながら、道路を優先的に通行できます。その結果、漏水現場に早く到達し、修繕できるようになります。

ご通行中の皆さまには、ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。



環境マネジメントシステム めざせ!環境負荷の低減

高松市水道局は、平成16年2月6日、環境マネジメントシステムの国際標準規格ISO14001の認証を取得し、現在、環境への負荷の削減に取り組んでいます。

●この度ISO14001 平成17年度運用状況をとりまとめましたのでお知らせします。

環境目標の達成状況

有害な環境影響を生み出すとされる省資源・省エネルギー関係の達成状況は下記のとおり環境目標の6項目のうち3項目で目標を達成しました。

ガソリン・軽油と電力、用紙類の使用量で目標が達成できなかった理由としては、前年度夏季渇水と周辺6町との合併による業務量の増加の影響が大きいと考えられます。今後は、より効率的な事業運営を通じ、環境負荷の低減に努めていきます。

環境目標(省資源・省エネルギー関係)の達成状況

平成17年度実績

公用車のガソリン・軽油使用量	16年度 数値以内	7.6 %増加	ガソリン・軽油使用量 3万1,698 ℓ
本庁舎の電力使用量 (対14年度対比)	3 %削減	1.1 %増加	電力使用量 52万4,925kwh
本庁舎の上水使用量 (対14年度対比)	2 %削減	6.4 %削減	上水使用量 1,339 ℓ
本庁舎の用紙類使用量 (対14年度対比)	3 %削減	4.8 %増加	用紙類使用量(A4判換算) 88万5,125枚
本庁舎の廃棄物排出量 (対15年度対比)	10 %削減	24.5 %削減	廃棄物排出量 4,289kg
本庁舎廃棄物リサイクル率	60 %以上	70.8 %	廃棄物リサイクル率 70.8%

ISO14001とは

環境マネジメントシステムとして、製品・サービス等について、環境に与える負荷を、継続的に低減防止していくための仕組みを、組織の中に構築するためのマネジメントシステムです。

運用システム

ISO14001を運用する組織は自ら環境方針および目的を定め、その実現のため計画(Plan)を策定し、それを実施および運用(Do)し、その結果を点検および是正(Check)し、さらに次のステップを目指した見直し(Act)を行うというPDCAサイクルで運用します。

それにより環境マネジメントシステムを継続的に向上させ、環境に与える有害な負荷を減少させることをねらいとしています。

